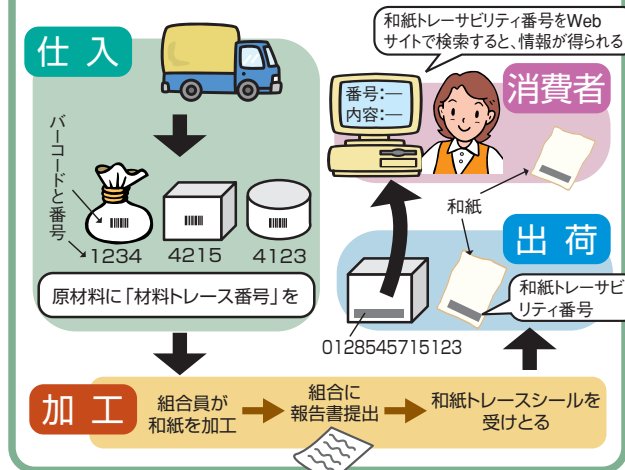


# IT時代の キーワード

## トレーサビリティ

### トレーサビリティの活用例

#### <和紙トレーサビリティ管理システム>



解説：ITコーディネータ 先織 久恒 (sakiori@mb.vipt.ne.jp)

トレーサビリティは、「トレース」(trace:追跡する)と「アビリティ」(ability:能力、できること)を合わせた言葉で、「追跡可能性」と訳します。ISO9000では、「記録物によって、その履歴、転用または所在を追跡でき

る能力」と定義されています。消費者が安全性の高いものを求めているなかで、トレーサビリティシステムの導入は、イメージアップや信頼性の向上につながります。厳しい状況の中で、品質の維持・向上、そして市場からのアカウント

ビリティ(説明責任)に対応することが、企業の利益とブランド・イメージを守るのです。それには「品質」こそが製造業が生き残るカギと考え、不良を出さないこと、そして方が一不良が発生した時はいち早く要因をつきとめ被害を最小限にと

どめることが求められています。BSE対策など、トレーサビリティには、後ろ向きで暗いイメージもありましたが、これからは消費者の信用を得られるというメリットを理解し、マーケティングなどに積極的に利用すべきであると言えます。

### ■和紙のトレーサビリティ事例

トレーサビリティを活用した事例として、福井県和紙工業協同組合の「越前」和紙トレーサビリティ管理システム構築を紹介します。

平成15年早春、福井県和紙工業協同組合には、毎週数人の方から「越前和紙の壁紙からはホルムアルデヒドが発生していないのか」「当社が仕入れた天ぶらの敷紙には薬品は使っていないのか」「卒業証書が越前手漉和紙だが、子供が舐めても毒物はないのか」といった問い合わせが入って来ていました。その都度職員が問い合わせルートから製造元を推定して使用した薬品があれば確認し、結果をお客様に報告していました。職員1名が掛かり切りという状態で、組合の負担も大きくなってきました。

ちょうどオフコンのリプレース時と重なり、またITコーディネータの薦めもあり、全国中小企業団体中央会の補助金(6割補助)を活用し、お客様の心配にスピーディに答える「和紙トレーサビリティ管理システム」を構築することにしました。

このシステムは、組合で共同購入する資材が物流センターに入庫する

ところから管理を始め、資材が越前和紙や、和紙商品になって出荷されるまでを、トレース管理するものです。情報は組合が管理します。

消費者の方は手元の商品についている「和紙トレーサビリティ管理番号」をWeb (<http://www.washi.jp>) から入力すると「和紙トレース番号管理受付証」を参照することができます。詳細の問い合わせについても番号により商品が確定できるため調査が早く行えます。

本システムのトレース情報は組合が報告書を提出する組合員を信用することで成り立っています。証明書を発行するコストの一部を消費者に負担してもらうより、在りのままなるべく簡単にお伝えすることからスタートしました。

組合員の約半数が老夫婦というところもあり、組合員が管理情報を報告する際はあえて手書きにしています。この部分にパソコンは使いませんが、報告書に記入することにより、製造の管理は「勘と経験」から「記録物」へとシフトしました。これからはさらに生産管理の充実と品質の向上を目指すこととなります。

品質の向上を目指すこととなります。